

第26回未来医療セミナー

演題：NKT細胞と樹状細胞の相互関係と
癌免疫療法への応用

演者：理化学研究所

免疫アレルギー科学総合研究センター

免疫細胞移植戦略研究ユニット

ユニットリーダー

藤井 眞一郎 先生

《要旨》

Natural Killer T(NKT)細胞は自然免疫の代表的な細胞で、抗原提示細胞のCD1d上に提示された糖脂質リガンドにより活性化され、IFN- γ を産生すると共に、直接的にMHC非拘束性に抗腫瘍効果を発揮する。さらにNKT細胞が優れている点は、間接的にも抗腫瘍免疫を誘導できることにある。その機構は活性化NKT細胞により完全成熟化を来たした樹状細胞が他の様々なエフェクター細胞の活性化を促し、それらの総合的作用により強力な免疫誘導と抗腫瘍効果を発揮することによる。

講演では、NKT細胞活性化を中心とした自然免疫に関して基礎と臨床の面からの解析を比較提示し、今後更に連鎖的なアジュバント効果による獲得免疫の誘導と抗腫瘍免疫療法を確立するために必要な分子機構について解説する。

日 時：2006年11月22日(水) 18:00より

場 所：大阪大学医学部附属病院外来棟4階 第1カンファレンス室

連絡先：未来医療交流会(大阪大学医学部附属病院未来医療センター内)

Tel：06-6879-6557/6552, Fax：06-6879-6538

E-mail: koryukai@hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp

協 賛：21世紀COE「細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成」

-Center for Integrated Cell and Tissue Regulation-